

猫ノミの駆除対策やお薬の種類の特徴とは？

猫ノミに感染した場合の具体的な駆除対策と、駆除薬の種類について説明した上で、効果が見込める猫ノミのお薬とはどのようなものかをお伝えしていきます。



猫ノミ対策やお薬の投与を始めるタイミングとは？

①猫が少しでも外に出る機会がある、または間接的に外部と接触する機会がある

室内飼いの猫の場合は、猫ノミ感染のリスクは室外に行く猫と比べると少なくなります。猫が少しでも庭やベランダなどの外に出る機会がある場合には、猫ノミ対策が必要になります。

室内飼いだとしても、人間の衣服や同居の犬に付くなどして部屋に侵入してきたり、網戸越しに野良猫から猫ノミに感染したりするリスクは避けられません。そのため、たとえ室内飼いだとしても、猫ノミのお薬の投与を検討すべきだといえるでしょう。

②野良猫の保護、飼育を始めた

野良猫の保護、飼育を始めることは素晴らしいことですが、一方で、飼うにあたっては事前の猫ノミ対策が必要になると考えておくべきです。さらに、マダニや耳ダニ、体内に宿る寄生虫である回虫などにも感染している可能性が考えられるので、保護した段階で動物病院を受診し、早期の対策を行いましょう。

③子猫を飼い始めた

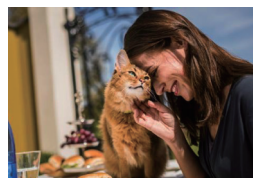
ペットショップやブリーダーから購入した子猫だとしても、猫ノミ・マダニ・耳ダニ・回虫などに感染しているケースは少なくありません。購入元であるペットショップやブリーダーから事前に感染の有無・ワクチン接種の有無・体調などの情報共有をもらうほか、念のため、動物病院で診察・検査を受けておくとうれしいでしょう。

猫ノミ対策やお薬の投与はいつまで必要？



猫ノミは、気温が13度以上あれば繁殖することが可能であると言われており、人間と猫が過ごす屋内の環境は、冬場でも13度以上が保たれていることがほとんどであるため、通年繁殖の危険性があります。特に、気温：18度～27度、湿度：75%～85%の環境が、猫ノミにとってもっとも繁殖しやすいと言われており、春～夏は特に注意が必要になります。さらに、猫ノミは卵→幼虫→さなぎ→成虫→産卵というサイクルを持っており、1回の猫ノミ駆除薬の投与を行ったとしても室内のノミを根絶することはできません。そのため、猫ノミの繁殖を止めるためには、サイクルが終了するまで、定期的なお薬の投与が不可欠です。

猫ノミのお薬・駆除対策の特徴



①ノミ駆除薬

スポットタイプは滴下式猫ノミ駆除液などとも呼ばれ、猫の体表に薬剤を垂らすことで無理なく吸収させ、効果を発揮する猫ノミ駆除薬です。薬剤を首の後ろ部分に垂らすのでグルーミングなどで猫が舐めとる可能性もなく、ノミの成虫については100%近い確率で駆除をすることができます。そのため、スポットタイプのノミ駆除薬は、もっともお勧めできる猫ノミの駆除対策であると言えます。

②ノミ取りクシ

ノミ取りクシによるブラッシングを定期的に行ってあげることで、愛猫に寄生した猫ノミを除去することができます。日頃の猫とのコミュニケーションも兼ねることができ、健康状態をチェックする習慣にもなるというメリットがあります。

③ノミ取りシャンプー

ノミ取りシャンプーは体表についている猫ノミを洗い流すことができるだけでなく、卵などもある程度洗い流すことができるメリットがあります。ただし、シャンプー嫌いな猫の場合はストレスを与えてしまうほか、ノミ取りシャンプーのみですべての猫ノミを駆除できるわけではないことも留意しておきましょう。

④電子ノミ取り

ホームセンターやペットショップで購入することができるのが電子ノミ取りです。電子の光を利用して猫ノミを誘引し、粘着シートで捕獲します。たくさんのノミを一気に駆除することができるため、部屋の中に設置しておく効果が期待できます。

⑤ノミ取り首輪

手軽に手に入る猫ノミ対策として利用されているのが、ノミ取り首輪です。首輪によってノミ取りを行うため、猫への負担が少ないという特徴があります。ただし、市販のノミ取り首輪は、首輪付近へ多少の効果がある程度です。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

 LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

